

11月月例労働経済報告のポイント

一般経済

○ 景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、緩やかに持ち直している。

- ・生産は、緩やかに持ち直している。輸出は、横ばいとなっている。
- ・企業収益は、減少している。設備投資は、下げ止まりつつあるものの、このところ弱い動きもみられる。
- ・企業の業況判断は、改善している。ただし、中小企業においては先行きに慎重な見方となっている。
- ・雇用情勢は、持ち直しの動きもみられるものの、東日本大震災の影響もあり依然として厳しい。
- ・個人消費は、おむね横ばいとなっている。
- ・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。

○ 先行きについては、サプライチェーンの立て直しや各種の政策効果などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待される。ただし、電力供給の制約や原子力災害の影響に加え、欧州の政府債務危機などを背景とした海外景気の下振れや為替レート・株価の変動、タイの洪水の影響等によっては、景気が下振れするリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

労働経済

○ 労働経済面をみると、雇用情勢は、持ち直しの動きもみられるものの、東日本大震災の影響もあり依然として厳しい。

- ・9月の完全失業率（季節調整値）は4.1%。
※ 岩手県、宮城県及び福島県を除く44都道府県では4.1%で2か月連続で前月差で改善。
- ・就業者数（季節調整値）は6,246万人。
※ 岩手県、宮城県及び福島県を除く44都道府県では5,973万人で3か月ぶりに前月差で増加。
- ・雇用者数（季節調整値）は5,468万人。
※ 岩手県、宮城県及び福島県を除く44都道府県では5,238万人で3か月ぶりに前月差で増加。
- ・有効求人倍率（季節調整値）は、0.67倍（前月差0.01ポイント改善）。
- ・新規求人倍率（季節調整値）は、1.11倍（前月差0.06ポイント改善）。
- ・現金給与総額（原数值・確報）は266,958円で、前年同月比0.4%減。